

『令和7年10月14日開催』

企業会計決算審査特別委員会
委員長報告

【令和7年12月定例会】

委員長 奥富精一

先ほど議長から報告がございましたとおり、委員長に不肖私が、副委員長に坂本だいすけ委員がそれぞれ互選されておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、去る9月定例会において当委員会に審査を付託され、閉会中の継続審査となっております議案第184号「令和6年度川口市水道事業会計決算認定について」、議案第185号「令和6年度川口市下水道事業会計決算認定について」及び議案第186号「令和6年度川口市病院事業会計決算認定について」の以上3議案につきまして、10月14日に委員会を開催し、慎重に審査いたしましたので、以下、その審査概要と結果を審査順序に従いご報告申し上げます。

初めに、「病院事業会計決算」を議題といたしましたところ、入院収益にかかわり、入院患者が減少しているのにもかかわらず、収益が増加した理由の詳細について、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」の手術実績について、未収金対策の実績について等、質疑応答の後、討論へと移行し、まず、医療センターは不採算部門を担う公的病院であることから、経営は厳しいが、市民の命を預かる病院である。紹介率の向上や人間ドック受診者増加による収益の増加に取り組み、さらに福祉部門と連携して患者支援を実施しており、公的病院の役割を果たしていることから、賛成するとの意見。

また、医療センターは市民に信頼され、安心して質の高い医療を提供し続けていることを評価する。令和6年度は7億4,000万円を超える純損失を計上するなど厳しい経営状況にあるが、必要な医師の確保や収益向上の努力に加え、DPC特定病院群への移行も目指しており、医療の質と収益の向上に資する努力をさらに続けていることを評価することから、賛成するとの意見がそれぞれ述べられた後、採決の結果、起立者全員で認定することに決しました。

続きまして、「水道事業会計決算」を議題といたしましたところ、水道管の耐震化率について、給水収益にかかわり、水道料金の収納率について、改良費にかかわり、AIを活用した管路の劣化予測について等、質疑応答の後、討論へと移行し、まず、命に関わる水を取り扱う水道事業において、水道料金に消費税を転嫁していることは認められず、また、独立採算には馴染まない分野であり、今後も国に対して財政的支援を求めるべきであると考えことから、反対するとの意見。

また、資材価格の高騰や労務単価が上昇するなか、約18億8000万円の利益を出し、運営していることに加え、水道管の耐震化率が全国平均を大きく

上回っていることは、評価に値する。水道料金の最終的な収納率は、99.8パーセントを超える見込みであり、AIなどの先進技術を取り入れることにより、効率的かつ適切に事業が進められていると判断できることから、賛成するとの意見。

さらに、安全安心な水の提供のためには、給水管の老朽化対策などの様々な工事が必要であり、その工事費にも消費税がかかっている。仮に、この水道料金に消費税を課さなかった場合、発注工事費も非課税にしなければならず、請負業者の経営圧迫につながるため、水道料金に消費税を課すことは適切であると考えことから、賛成するとの意見がそれぞれ述べられたる後、採決の結果、起立者多数で認定することに決しました。

最後に、「下水道事業会計決算」を議題といたしましたところ、管渠改善率の推移について、管渠費にかかわり、下水道管堆積土砂等清掃委託料における緊急点検の詳細について等、質疑応答の後、討論へと移行し、まず、下水道事業を推進することが1番の目的であるが、現在、汚水処理は使用者の負担であり、市民の負担増と常にセットである。一方で八潮や前川で下水道事故があったことから、本市のように国庫補助がつかなくても老朽管対策として独自に点検、整備を進めることは、人命を守ることに寄与するものであることから、賛成するとの意見。

また、資材価格等が高騰するなか、川口市下水道ビジョン等に基づき、老朽化した管渠の更新等を計画的に推進していることは評価に値する。資金繰りについても、流動比率が低いことは会計の構造によるものであり、実質的には安定しているとのことから、今後も市民の安全安心と公衆衛生を支える基盤として、使用料収入、一般財源、起債を適切に組み合わせた着実な事業展開を期待し、賛成するとの意見がそれぞれ述べられたる後、採決の結果、起立者全員で認定することに決しました。

以上で報告を終わります。